

UAE 北部首長国の概況とビジネス機会 ～③アジュマン首長国及びウンム・アル・カイワイン首長国～

0. はじめにーUAE の「北部首長国」

アラブ首長国連邦（UAE）は、7つの首長国からなる連邦国家である。その構成を概観すると、首長が連邦大統領を兼ね、UAE 全体国土の8割、GDPの約7割、人口の3割（自国民では4割強）、原油生産の9割を占める**アブダビ首長国**が大きな地位を有する。次いで**ドバイ首長国**の地位が高く、首長が連邦副大統領と首相を兼ね、GDPの3割・人口の3割を占めている。「**北部首長国**」と総称されるその他5つの首長国は、あわせて残りのGDPの1割、人口の3割弱を構成している。

表①：UAEにおける首長国別の経済・人口規模

首長国名	首長家	面積	名目 GDP (十億 USD)	人口 (万人)	自国民人口 (万人)
アブダビ	ナヒヤーン家	67,340 km ²	262 (2014)	291 (2016)	40 (2010)
ドバイ	マクトゥーム家	3,885 km ²	92 (2014)	270 (2016)	17 (2010)
シャルジャ	カーシミー家	2,590 km ²	31 (2014)	141 (2015)	15 (2010)
アジュマン	ヌアイミー家	259 km ²	4 (2013)	50 (2017)	4 (2010)
ラス・アル・ハイマ	カーシミー家	1,684 km ²	4 (2009)	35 (2015)	10 (2010)
フジャイラ	シャルキー家	1,580 km ²	3 (2009)	23 (2016)	6 (2010)
ウンム・アル・カイワイン	ムアッラー家	720 km ²	0.6 (2009)	5 (2005)	2 (2010)
UAE 全体	—	83,600 km ²	385(2014)	1,043(2018)	95(2010)

出所：The Official Portal of the UAE Government、IMF 等より作成

注）各項目の数値の後のカッコは該当年を示す。UAE 政府の公表する統計は速報性に乏しく、現在、出所ウェブサイトを確認できる最新値を記載

また、UAE 全体における日本企業の進出状況は、2017年5月時点でジェトロ・ドバイ事務所が実施した推計によると、合計442事業所となっている。内訳は、ドバイが最も集中しており345事業所(78%)、アブダビが主に石油・ガス関連や銀行・商社等の企業を中心に73事業所(16%)が立地しており、北部首長国は合計で24事業所(5%)にとどまっている状況である。

以上のように北部首長国の経済規模や、これまでの日本企業の経済活動は限定的ではあるものの、アブダビ・ドバイと比較して低廉な労働力や各首長国が推進する産業多角化政策などを活かしたビジネス機会が存在する。本シリーズではこうした北部首長国について、首長国ごとに経済概況とビジネス機会の解説を行いたい。以下、本稿では「**アジュマン首長国**」、及び「**ウンム・アル・カイワイン首長国**」に焦点を当てて解説する。

1. アジュマン首長国とウム・アル・カイワイン首長国の特徴—産業構造・経済動向

アジュマン首長国は UAE を構成する 7 つの首長国の中で面積的にはもっとも小さな首長国である。ドバイから約 40km 程度の距離に位置するため、隣接するシャルジャと同様にドバイで働く人向けのベッドタウンという側面もある。シャルジャよりも総じて不動産価格や家賃がさらに安価となっている。また外国人居住者の生活面におけるイスラムの戒律適用が緩いことも特徴で、世界中の酒類を購入できる大型酒店があり、ドバイやアブダビでは必要となるリカー・ライセンスの取得や掲示が不要かつ酒税もかからないため、他首長国からも買い出し客が多く訪れている。

アジュマンは古くから漁業と真珠の採取を生業としてきたが、真珠採取業は他の首長国と同様、1920 年代に日本の養殖真珠の発展等の要因から衰退した。一方で、漁業とダウ船の造船業は現在でも同首長国の経済を支える主要な産業であるほか、建設、不動産、サービス、金融といった産業でも一定の集積がみられる。近年アジュマン政府は観光業の活性化に取り組んでおり、ビーチ沿いにフェアモント・ホテルをはじめとした複数のリゾートを誘致、観光業の収益は 2016 年の約 1.1 億 US ドルから翌年は約 1.3 億 US ドルと 12% の伸び率となっている。「グリーン・エコノミー」による幸福社会の建設をキー・コンセプトとする政策目標「アジュマン・ビジョン 2021」では、45 のホテル、4,235 の客室を新設する計画を立てており、アジュマン観光庁は海外で開催される展示会等での観光客誘致も行っている。2018 年にはホテル等で宿泊客が支払う観光税を 10% から 7% まで削減する等の施策も導入している。

ウム・アル・カイワイン首長国は連邦中もっとも人口の少ない首長国で、コール・アル・ビディヤ(Khor Al Bidiyah)と呼ばれる細長い半島から街が発展した。南西はシャルジャ、北東はラス・アル・ハイマに接している。他首長国のように 5 つ星リゾートは現時点で立地していないが、中東地域初のアクアパークとして 1997 年に開業した「ドリームランド・アクアパーク」は現在でも地域最大と謳っているほか、湾岸に大小広がる島々にはウミガメや海鳥といった海洋生物が豊かに存在している自然環境もあり、行楽地としての存在感を打ち出している。アジュマンと同様にライセンスフリーで酒類が購入できる。

ウム・アル・カイワインの元々の主要産業としては、真珠採取、漁業、農業等であるが、現在では後述のフリーゾーンや工業団地の整備などにより軽工業も行われており、産業が多角化してきている。漁業に関しては現在でも UAE 内の海産物の主な供給源にもなっており、他の中東諸国や欧州へも輸出されている。1984 年には日本の JICA の技術協力によって水産資源開発センターが建設され、複数の魚種の養殖に成功。2011 年に同所は「シェイク・ハリファ海洋研究センター」として改組することが発表され、ハリファ・ビン・ザード UAE 大統領兼アブダビ首長のイニシアティブによる同国の海洋保全拠点として拡張工事が進められている。農業に関しては、領内に UAE 東南部からオマーン国内に連なるハジャル山脈の帯水層からなる肥沃なオアシスが存在し、伝統的にナツメヤシが栽培されていた。現在では穀物や野菜の栽培もおこなわれているほか、UAE で最大規模の養鶏場が建設され、周辺の首長国に供給している。

2. アジュマン首長国及びウム・アル・カイワイン首長国のビジネス環境

アジュマン及びウム・アル・カイワイン共に、従来からの一次産業は継続しつつ、他の首長国と同様に新たな産業を誘致するためにフリーゾーンを設置する等、新たな産業誘致の施策を実施している。

アジュマン中心部の入り江沿いには、アジュマン港と、アジュマン・フリーゾーンが隣接して設置されている。また内陸の国道沿いにはメディア関連の事業者向けのアジュマン・メディアシティ・フリーゾーンが立地している。このほかフジャイラ首長国とシャルジャ首長国に挟まれた地域にある内陸の飛び地マナーマでは、フリーゾーンを擁する国際空港の建設計画がある。

ウム・アル・カイワインにはアフマド・ビン・ラーシド港と、隣接する同港フリーゾーンが 1987 年に設置されており、幅広い業種の企業を誘致することに積極的に取り組んでいる。同フリーゾーンは 2014 年に首長令によって「ウム・アル・カイワイン・フリートレード・ゾーン (UAQ FTZ) 」に改組、2016 年末には“スマートシティ”としての機能も備えたとする UAQ FTZ フェーズ 2 の開発が発表されている。そのほか、民間デベロッパーによる工業団地も開業している。

表① アジュマン及びウム・アル・カイワインに存在するフリーゾーンと工業地帯

区画名	概要・動向、主な企業等
アジュマン・フリーゾーン (Ajman Freezone)	<ul style="list-style-type: none"> ・繊維・衣料品、食品・飲料・タバコ、木材・家具、紙パルプ、印刷、出版、化学・プラスチック、非金属鉱物、卑金属、機械等の事業者を中心に、2007 年時点で約 3,000 社が登記されていた。 ・アジュマン港隣接のほか、シャルジャ国際空港まで車で約 25 分、ドバイ国際空港まで車で約 30 分という立地の良さも売り。
アジュマン・メディアシティ・フリーゾーン (Ajman Media City Freezone)	<ul style="list-style-type: none"> ・インド系大手英字新聞であるタイムズ・オブ・インド及びヒンドウスタン・タイムズ (Hindustan Times) の両紙と、UAE 向けにローカライズしたコンテンツ制作等の協業を行う旨の MoU を締結。 ・フリーゾーンのトップがエジプト市場の攻略を重要視する旨の発言を行う等、進出企業に対して特に MENA 地域における活動の支援を行う方針。
ウム・アル・カイワイン・フリートレード・ゾーン (UAQ FTZ)	<ul style="list-style-type: none"> ・IT、コンサルティング、FMCG、食品関連、宝飾、自動車中古パーツ等を取り扱う企業が主要な契約者である。主に中小企業向けの小規模オフィスや、登記のみで物理的にオフィスを賃貸しないオプションによる契約が多い。 ・2016 年時点でライセンス発行数は 2,500 社を超える。
エミレーツ・モダン・インダストリアルエリア (Emirates Modern Industrial Area)	<ul style="list-style-type: none"> ・2006 年にドバイのタミール社 (Tameer holding) によってウム・アル・カイワインに開発された 456 万平米の工業地帯。倉庫、労働者用住宅、工場用地などを用意。UAE の主要な高速道路に面し、交通の便が良い。

出所：各フリーゾーンウェブサイトおよびトムソンロイター等の報道記事より作成

アジュマン及びウム・アル・カイワインに事業拠点を設けることの大きなメリットとして、まず事業コストが安価であることが挙げられる。一例として、ドバイの空港フリーゾーン（DAFZ）に貿易会社を設立した場合、事業ライセンス料（General Trading License）に年 40,000AED（約 120 万円：1 AED=30 円として概算）支払い、また平米あたり年間約 2,200 デ AED 程度（6.6 万円）のオフィス賃料が別途発生する。つまり 20 平米程度の小規模オフィスを借りた場合、オフィス賃料とライセンス料だけで年間合計 84,000AED（252 万円）が必要となる。しかし、アジュマン・フリーゾーンの場合は、同様のコストが合計約 43,000AED（129 万円）で約半額となっている。ウム・アル・カイワインの UAQ FTZ の場合は、ライセンス料が 35,000AED（105 万円）、オフィス賃料は登記及びシェアオフィスのパッケージの場合で年間 16,000AED（48 万円）となり、合計するとアジュマンよりやや割高になる。

アジュマン・フリーゾーンにおいて取得可能なライセンスは、トレード・ライセンス（貿易事業者）、イーコマース・ライセンス（電子取引事業者）、サービス・ライセンス（コンサルティング、IT 関係等の事業者）、工業ライセンス（機械の組み立て等の軽工業者）の 4 種であり、ドバイの DAFZ やジュベル・アリ・フリーゾーンとほぼ同種のライセンスを取得することが可能である。アジュマン・メディアシティ・フリーゾーンについては、物理的なオフィスを設置せずに登記のみを行い、必要な時のみ共有オフィススペースを利用する形態の「ビジネスセンター型」パッケージが 4 つ用意されており、フリーゾーン内のオフィススペースの利用時間によって金額が異なる料金設定となっている。あわせて、実際にオフィスを賃貸するプランも用意されており、登記のみを行うケースとの 2 つのオプションの選択が可能となっている。

ウム・アル・カイワイン・フリーゾーンにおいては、トレード・ライセンス、サービス・ライセンス、工業ライセンスの 3 種に加えて、コンサルティング・ライセンス（プロフェッショナルアドバイスを提供する事業者、職人など特殊な技能を有する事業者）を提供している。また、フリーランス許可書（Freelance Permit）を発行しており、これは主にテクノロジー、音楽、映画業界等で事業活動を行う企業ではない個人に対して発行されることになっている。

3. アジュマン首長国及びウム・アル・カイワイン首長国のビジネス機会

ここまでみてきた通り、アジュマン及びウム・アル・カイワインには、製造業をはじめ様々な業種を誘致するためのフリーゾーンや港湾等のインフラがある程度は整備されているが、本格的に進出し、操業を行っている企業数や事業規模としては、他首長国と比較して限定的である。一方で、大きな初期投資は掛けずに現地に拠点を構えたいと、UAE や中東北アフリカ（MENA）地域の事業機会を探りたいといったニーズのある企業にとっては、拠点の安価な維持費用は魅力的なポイントの一つであろう。製造業やそれらを顧客として部品やサービスを提供する企業が小規模にビジネスを始めるにあたって、両首長国は拠点を構えるに足る魅力があるものと考えられる。

日本企業では商船三井テクノトレード株式会社がアジュマン市内（フリーゾーン外）において、Ajman General Services & Supplies Co., L.L.C (AGSS) という関連会社を設立している。AGSS は船舶のチャーターやオペレーション事業を展開している他、UAE 国内におけるホテルや飲食店、スーパー等の小売店に対して日本産の食材や加工食品を販売している商社である。

消費市場としての事業機会に関しては、近年、両首長国でも近代的なショッピングモールの開発が行われており、各施設へのテナント出店・各種サービス等の市場も漸次拡大していこう。アジュマンでは中心地に高層マンションが目立つようになってきたほか、アル・ゾーラ地区のビーチ開発も進む。ウナム・アル・カイワインでは UAE 最大手デベロッパーのエマールが沿岸高級住宅地 UAQ マリーナの開発を行っているほか、オールドタウンの宅地再開発も進んでいる。現在の主要な消費市場情報は下表の通りである。

表② アジュマン及びウナム・アル・カイワインの主要な消費市場（出所：各社ウェブサイト等より作成）

名称	概要
サラフ・スーク(Saleh Souq)	アラブ伝統的な建物が特徴のアジュマンのスーク。近年、大規模な拡張及び改装を終えた。観光施設の意味合いも強い。入居しているのは昔ながらの小規模な小売店がメインで、土産物や織物などを販売している。
アジュマン・シティ・センター (Ajman City Center)	30,000 平米、70 店舗、1998 年オープン。中東諸国に数多くのモールを展開するドバイ大手財閥マジッド・アル・フタイムが経営。2018 年 10 月時点でアジュマン最大のモールで 9 個のスクリーンのある映画館も入っている。
ミルカーズ・ショッピング・モール (Mirkaaz Shopping Mall) <建設中>	54,000 m ² 、100 店舗。2017 年 9 月に建設着手、19 年に完成予定。ミルカーズは近しい人々の交流の場を意味する。政府系のアジュマン・ホールディングスが手掛ける目玉事業。ETFE フィルムを使用したアトリウムを中心に、ハイパーマーケット、映画館、飲食店等が入居。
モール・オブ・UAQ (Mall of UAQ)	20,00 平米、約 60 店舗、2018 年末にグランドオープン予定。湾岸諸国に広くリテール・ネットワークを持つ UAE 発祥印僑企業のルル・ハイパーマーケット等がソフトオープン済み。ウナム・アル・カイワイン初の近代的モールで、映画館も開業予定。

以上

UAE北部首長国の概況とビジネス機会～③アジュマン及びウナム・アル・カイワイン首長国～（2018年11月作成）

UAEプラットフォーム・コーディネーター：ksn Research & Consulting, GEN Events LLC

日本貿易振興機構（ジェトロ）ドバイ事務所

35th Floor, #3503 - #3506, The One Tower, Barsha Heights, TECOM, Dubai, U.A.E.

【おことわり】本資料は「UAE 中小企業海外展開現地支援プラットフォーム事業」の一環として作成したものです。提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご利用下さい。ジェトロではできるだけ正確な情報の提供を心掛けておりますが、本資料で提供した内容に関連して不利益等を被るような事態が生じたとしても、一切の責任を負いかねますので、予めご了承下さい。

アジュマン首長国

基本情報

首長家 …………… ヌアイミー家
 面積 …………… 259km²
 名目GDP …………… 40億USD (2013)
 人口 …………… 50万人 (2017)
 自国民人口 …… 4万人 (2010)



ウンム・アル・カイワイン首長国

基本情報

首長家 …………… ムアッラー家
 面積 …………… 720km²
 名目GDP …………… 6億USD (2009)
 人口 …………… 5万人 (2005)
 自国民人口 …… 2万人 (2010)

